

学校生活や学びの連続性 ～中学校・高等学校連絡会から～

6月2日（木）、中学校・高等学校連絡会を実施しました。当日は、1年生の授業参観、お越しいただいた中学校の先生と本校1年生徒との懇談会、そのあと本校1学年担当教員、生徒指導部長との懇談会を行いました。

本校1年生の出身中学校7校から、中学時代に生徒がお世話になった先生方に高校に来ていただき、理科と数学の授業で生徒たちの学習の様子を見ていただきました。そのあとの懇談会では、生徒たちは出身中学校ごとに分かれて、久しぶりにお会いする中学校の先生となごやかに懇談を行い、高校生活や中間考査の結果などを嬉しそうに報告する姿が印象的でした。

「学校生活や学びの連続性を大切にした連携教育」の重要性が言われています。中学校の先生と、その生徒が入学した高等学校の教員が、生徒の13歳から18歳までの成長・発達を支援するという共通の視点で生徒を見ていくことはとても大切なことだと思います。

13歳から15歳までの多感な中学時代、そして中学を卒業して進路を決めるにあたって指導していただいた先生方に高校へ来ていただき、送り出していただいた生徒たちと懇談をしてもらえるのは、小規模校である本校のメリットだと思います。生徒たちにとって、うれしい時間ではなかったでしょうか。

本校では、連携型中高一貫教育校としてきめ細かい指導を行っています。生徒が高等学校でたくさんのことを学び、一回り大きく成長して、それぞれの希望の進路に向かって進んで行くことができるよう、きめ細かな指導を行っています。

そのためにも、中学校の先生方と情報を共有しながら指導に当たることができればと考えております。

（校長 高橋信之）

